

Case 4

■ 訪問看護ステーション上西

辻村 久美香 さん

看護師経験:22年

特定行為取得区分

在宅・慢性期領域

- ・呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
- ・ろう孔管理関連(胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換)
- ・創傷管理関連(褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去)
- ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

受講の動機・きっかけは…

所長が特定看護師であり、在宅では急激に体調が悪くなることが多く、少し点滴したら患者が楽になるのにと感じる事が多くありました。専門的知識に基づいたアセスメント力、判断力、医師への報告をすごいと感じました。そこで、こどもと一緒に勉強するつもりでもう一度チャレンジ。

今すぐ患者さんに対応できたら…が一番

訪問看護師としての自分の武器とするため、看護の幅を広げる事ができると思いました。現場に出ると看護の幅が広がったと感じています。

研修受講してよかったか？

気管切開と胃瘻造設した患者は、受診して気切チューブと胃瘻を同時に交換しなければならない。同日の交換だと「しんどい」と言っていたので、訪問看護で交換することで患者さんの苦痛も少なく交換することができています。2日続けての受診は大変だと言っており、来てくれるとありがたい!と言ってくれています。特定看護師がいることで2日に分け処置が実施できるため、負担も少なくなります。

患者にとっても家族にとってもメリットが大きいと思います。



「看護の日」キャラクター
(静岡県) かんごちゃん

地域の反応は？

活動することで、周囲の診療所には普及してきたが、まだまだ普及していく必要があります。

患者家族から、同意を得た上で行為を実施。

受入はよいが、抵抗があるという人もいます。

その場合は医師実施→特定看護師の実施を医師が見守る→特定看護師が実施と段階を踏むことで患者の信頼を得ていきたいです。

訪問看護ステーションにおいて 特定看護師の存在意義は？

やりがいを感じます。

一番近い看護師が実施することで利用者は安心する。わざわざ胃ろうの交換のために受診する家族の負担も軽減できます。また、悪化しないために予防的にすることで継続して生活ができます。

病院のNPさんから状態が安定している患者を紹介してもらって、自宅でできるように関わっている。現在特定行為を必要とする利用者は4人。所長が先陣を切って開拓してくれていたため、そのレールに沿って実施し頑張っています。今はまだ自信のない部分もありますが、相談しながらやっている。先に取得した所長と一緒に訪問してもらうことで安心できるし、また自信にも繋がっている。

特定看護師を目指す在宅領域の 訪問看護師へのメッセージ

特定を取ったことによって病状が悪化することを予防的ケアや定期交換等利用者の負担軽減に繋がります。日々関わっているスタッフが実施するということに意味があり、魅力だと思う。

まだ自分が手技を行うことに必死だけどもっとみんなに知ってもらいたい。



辻村久美香さんの

休みの 過ごし方

趣味は、こども(小6)のサッカー観戦。

溜まったTV視聴。

自宅でのんびりしている。





■ 訪問看護ステーション上西

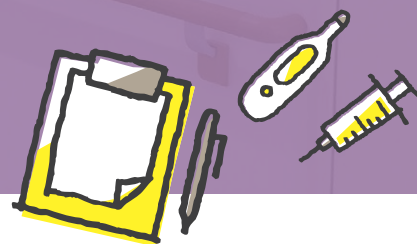
高関 左保 さん (所長)

看護師経験: 23年

特定行為取得区分

在宅・慢性期領域

- ・呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
- ・ろう孔管理関連
- ・創傷管理関連(褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去)
- ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連



受講の動機・きっかけは …

訪問看護ステーション上西設立2年目に、特定看護師を知り、もう一度勉強したいと思い受講しました。聖隷クリストファー大学特定行為研修の1期生。

関係機関に営業にいくと、自ステーションの強みを聞かれる、そこで自分のステーションの強みを作る必要があると思い、他のステーションと差別化を図るため、受講しました。

訪問看護ステーションにおいて特定看護師の存在意義は？

臨床推論、フィジカルアセスメントは医師のいない在宅領域ではとても重要です。できれば全スタッフに取得してほしいと願っています。

医療保険の方の依頼も多く、どんな方でも受け入れる。医療に困っている人が困らないように、医師がいなくても看護師がいれば安心と思ってもらえるような施設を目指していきたい。

訪問看護ステーションにおける特定行為研修受講について

現在特定看護師は2人。来年1名受講予定。

受講中は、スタッフが1人不足の状態になりますが、1人の業務のカバーをみんなで助けてくれます。スタッフからの不満はないです。気切の人は、二人で訪問し見てくれているので、背中を見て目指す人が増えると看護の質、ステーションの質に繋がると思います。

訪問看護ステーション上西の組織ビジョン

高関所長からのメッセージ

《特定看護師を目指すみなさんへ》

看護職は生涯勉強。特定行為の中にある科目は看護師として大切。看護の学び直しの一つとして看護がひろがる。根拠を持ってアセスメントできることは看護するのに自信になります。

在宅では看護師が滞在する時間は限られている。介護するご家族に対して先を見据えた助言をしていくことが重要となってきます。実際に患者さんに触れ、話を聞きながらアセスメントすることで、今までどうだったのか、これからはどういう経過をたどっていきそうなのか予測し、判断しながら生活の中での看護を行っています。

在宅では訪問看護師の報告の仕方での後の医師の判断も変わる可能性もあります。医師への報告は、客観的情報だけではなく、自分自身のアセスメントを伝えながら行えるようになってほしいと思っています。

今後、(訪問看護師)みんなが特定看護師になってくれ、もっともっと看護の質を上げていけるといいなあ~と思います。

《受講について補助あるので使ってほしい》

受講費自己負担は1/3、施設負担2/3。自己負担分はハローワークの助成金、施設負担分は県の助成金も使っています。



《医師からの反応》

医師と同席しながら特定行為について伝えていくことで、理解し協力してくれています。今まで相談して難しかった事例はありませんでした。

時には医師から私たちのアセスメントについて聞かれることもあります。

特定行為についてその都度報告することで「ありがとう、助かります」との言葉を頂けることもあります。



「看護の日」キャラクター
(静岡県) かんごちゃん